

「江戸川、中川・綾瀬川流域治水協議会」で取組みを説明

～民間の参画団体を代表して、損保協会の各種防災啓発取組みをアピール～

日本損害保険協会 関東支部（委員長：本橋 伸二・三井住友海上火災保険株式会社 部支店サポート部部长（コンプライアンス担当）は、5月29日（金）に開催された、国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所が主催する「令和8年度 江戸川、中川・綾瀬川の両流域治水協議会」の事例紹介において、民間の参画団体を代表して、水害対策に係る損保協会の各種啓発取組みについて説明し、活用に向けたアピールを行いました。

関東支部では、江戸川河川事務所と関係を構築する中で、2025年5月30日に開催された同協議会において規約改訂が行われ、「正委員（構成員）」としての参画が承認されています。

参画後初となる今回の同協議会では、次第中、「構成員からの対策事例紹介」の中で5つの団体・機関から説明が行われ、関東支部は、各自治体に並び唯一民間団体として説明機会が得られたことから、奥事務局長から、水害対策に係る損保協会の各種啓発取組みとして、①防災情報サイト『そんぽ防災Web』の公開、②『そんぽデジタル・マイ・タイムライン』の公開、③『水災への備えに関する意識調査』の実施、について説明しました。既に「江戸川、中川・綾瀬川流域治水ポータルサイト」に掲載されている①『そんぽ防災Web』および②『そんぽデジタル・マイ・タイムライン』については、流域の自治体においてもリンクの掲載や、住民への紹介をいただくなど、更なる活用について依頼しました。

中川・綾瀬川流域では、2023年6月の大雨（台風2号）により甚大な浸水被害が発生したことを受けて、国、県、流域の6市1町が連携して早期に浸水被害の大幅な軽減を図るため、「中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクト」が始動しており、「流域治水」について多くの方に知ってもらい、行政や民間企業・団体が連携して、流域治水の『自分事化』を考えることを目的に各種の取組みが進められています。

これを踏まえ、当協会に対しては、各種啓発ツールの活用によるハザードマップの更なる周知やリスク啓発、被災後の経済的復旧の一助となる水災補償の必要性などを行うことにより、ソフト面での活動の幅が広がることを期待されています。

当支部では、本協議会への参画を通じて行政機関や自治体等との連携を強化し、地域のリスク認識と防災意識の向上ならびに水災補償の理解促進と普及向上に向けて鋭意取り組んでいきます。



【江戸川、中川・綾瀬川流域治水協議会の様子】

「そんぽデジタル・マイ・タイムライン」の公開

情報伝達、避難計画等に関する事項

担当部署	日本損害保険協会 関東支部
活用機関	江戸川河川事務所
経緯・背景	時代にマッチさせるべく、住民がより使いやすく身近に作成し取り組んでいただけるよう、パソコンやスマートフォンを用いたデジタル形式での防災啓発ツールを開発することで、行政や自治体が進めるマイ・タイムラインの作成促進を後押しする。 【協賛：国土交通省、一般社団法人日本損害保険協会】
取組概要	本プロジェクトは、国土交通省作成のマイ・タイムライン制作ツール「助けキッド」を参考に制作しており、 ①ハードウェアを備えて自身を取り巻く水害リスクやチェックポイントが明示してある川の水位位置するまでの購入を考慮し、 ②スナックで防災計画と対応シナリオを作成できる。
取組内容の工夫点・留意点・課題	「デジタルコンテンツとしての防災意識向上」を目的とし、国土交通省が公開している「助かるハザードマップ」が発表されるため、マイ・タイムラインを作成しやすい、制作したマイ・タイムラインをPDFにしてメール発信でも活用できる、といった特徴がある。
取組による効果	本コンテンツをリリースした2025年3月～同年12月までの年度の閲覧数は「300万回」となっており、マイ・タイムライン作成に資するツールとして有効活用されていると見込まれる。 また、江戸川河川事務所が江戸川、中川・綾瀬川流域治水ポータルサイトの「防災情報」に掲載している。

【「そんぽデジタル・マイ・タイムライン」の説明資料】

- (ご参考) 江戸川、中川・綾瀬川 流域治水ポータルサイト⇒ <https://edogawa-ryuiki-portal.jp/>
 そんぽ防災Web⇒ <https://sonpo-bosai.jp/>
 そんぽデジタル・マイ・タイムライン⇒ https://sonpo-bosai.jp/sonpo_digital_my_timeline